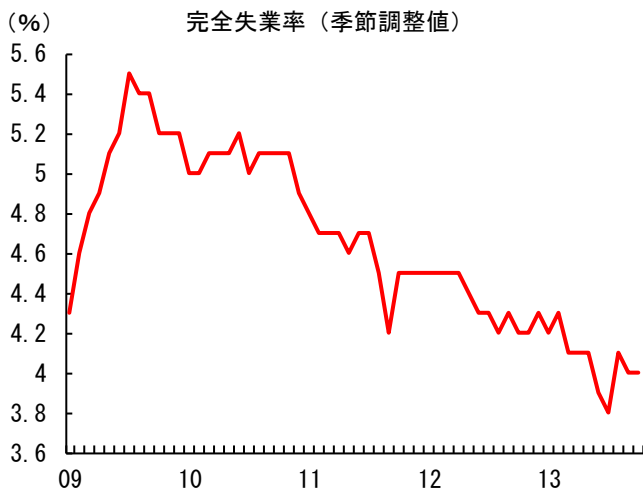


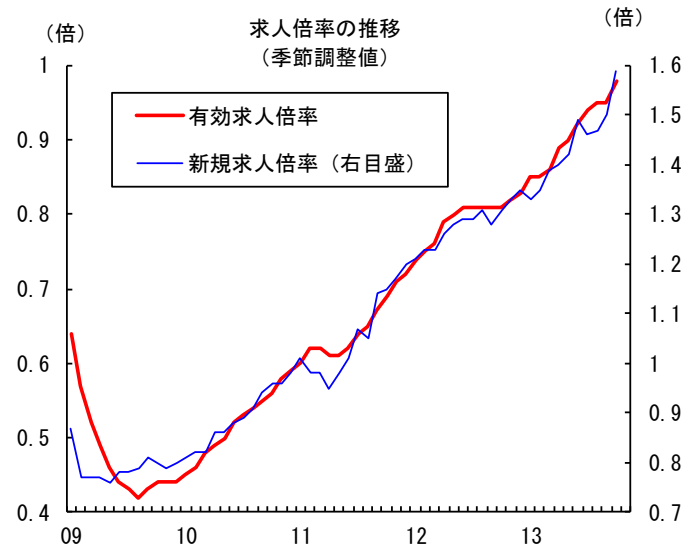
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2013年10月） 発表日：2013年11月29日（金）  
 ～雇用の改善が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## ○雇用は緩やかに改善。先行きも改善の公算大

総務省から発表された2013年10月の完全失業率は4.0%と、前月と同水準だった。労働参加率が上昇（職探しのために労働市場に参入した人が増えた）した影響で失業率は改善しなかったが、就業者数は季節調整済み前月差+8万人（9月：+19万人）と2ヶ月連続で増加、雇用者数も前月差+10万人（9月：▲15万人）と増加するなど、内容は良好である。なお、前年比では、就業者数が+45万人（9月：+51万人）、雇用者数が+50万人（9月：+53万人）と、それぞれ10ヶ月連続の増加となっている。特に最近では、女性の雇用者数の改善が目立つ。有効求人数、新規求人数の上昇傾向が続いていることも併せ、雇用の緩やかな改善を示す結果と言って良いだろう。景気の遅行指標である雇用についても、景気回復が波及していることが確認できる。

10月の就業者数（季節調整値）を産業別に見ると、宿泊・飲食サービス業が前月差+11万人（9月：+15万人）と増加が目立った。建設業も前月差+5万人（9月：+27万人）と3ヶ月連続で増加しているが、前年差では▲3万人と、6ヶ月連続でマイナスにとどまっている。均してみると一進一退の域をまだ出でおらず、建設需要の好調や求人増加などと比較すると伸び悩んでいる印象を受ける。ミスマッチの深刻さが窺える。また、製造業は前月差+1万人（9月：▲18万人）だった。小幅プラスではあるが、8、9月に減少した後にしては弱い印象を受け、製造業の雇用が依然低迷していることが示されている。ただし後述の通り製造業の求人が増加していることなどから見て、先行きは持ち直す公算が大きい。

## ○求人も改善傾向持続

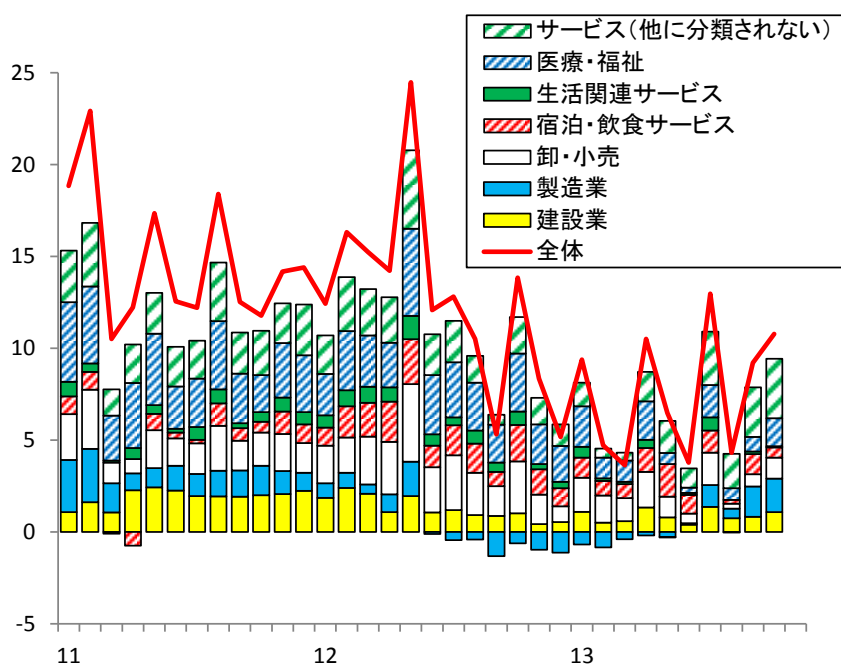
雇用者数の先行指標である求人も改善が続いている。厚生労働省から公表された13年10月の有効求人倍率は0.98倍と（9月：0.95倍）前月から0.03ポイント改善、新規求人倍率は1.59倍と前月（1.50倍）から0.09

ポイントもの改善となった。それぞれ改善幅が非常に大きいですが、これは有効求職者数が前月比▲1.9%、新規求職者数が前月比▲5.5%と大幅に減少したことで押し上げられている点に注意が必要。有効求人数で見ると前月比+0.5%、新規求人数は前月比+0.6%であり、改善ペースはこれまでとさほど変わらない。求人は、引き続き着実に改善しているとの評価で良いだろう。

新規求人数を産業別に見ると、建設業（前年比+13.5%）、製造業（前年比+20.2%）、運輸業・郵便業（前年比+11.6%）、不動産・物品賃貸（前年比+10.8%）、教育・学習支援（前年比+12.3%）、サービス業（前年比+22.5%）など幅広い業種で前年比二桁の伸びとなっている。特に製造業ではこのところ改善ペースが速まっている。先行きは製造業雇用の持ち直しに期待が持てるだろう。

昨年末以降、景気が速いペースで持ち直していることが、こうした求人の増加に繋がっている。雇用の動きに先行する求人動向で改善の動きが続いていることは、今後の雇用増に向けての追い風だ。先行きも、景気回復の効果が波及することで、雇用者数は徐々に増加ペースを速めていくだろう。

新規求人数（前年比、%）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」